

平成26年3月期 第2四半期決算説明会

I .平成26年3月期 第2四半期決算概要

常務執行役員 財務部長
藤井 秀則



東海旅客鉄道株式会社

平成25年10月30日 1

平成26年3月期 第2四半期決算概要(連結)

(億円)

	25年3月期 2Q累計 (4-9月) A	26年3月期 2Q累計 (4-9月) B	増減 (B-A)
営業収益	7,898	8,147	+249
営業費用	5,461	5,265	△195
営業利益	2,436	2,881	+445
営業外損益	△589	△422	+166
経常利益	1,847	2,459	+611
四半期純利益	1,142	1,595	+453

◆長期債務残高 連結:2兆5,753億円(前期末比△646億円)

平成26年3月期 第2四半期決算概要 (連結・セグメント別)

		25年3月期 2Q累計 A	26年3月期 2Q累計 B	増減 (B-A)	(億円)
営業収益		7,898	8,147	+249	
	運輸業	6,247	6,311	+63	
	流通業	1,030	1,053	+22	
	不動産業	319	329	+9	
	その他	952	1,069	+116	
営業費用		5,461	5,265	△195	
営業利益		2,436	2,881	+445	
	運輸業	2,302	2,729	+426	
	流通業	33	38	+4	
	不動産業	77	77	0	
	その他	18	22	+3	

※セグメント別の内訳はセグメント間取引の相殺消去を行う前の数値です。内訳の合計値は営業収益・営業利益と一致しません。

平成26年3月期 第2四半期決算概要(単体)

	25年3月期 2Q累計 A	26年3月期 2Q累計 B	増減 (B-A)	(億円)
営業収益 (運輸収入)	6,258 (5,816)	6,317 (6,017)	+59 (+200)	
営業費用	3,935	3,575	△359	
人件費	859	871	+12	
物件費	1,845	1,409	△436	
動力費	179	206	+27	
修繕費	793	372	△420	
業務費	873	829	△43	
租税公課	165	163	△2	
減価償却費	1,064	1,131	+66	
営業利益	2,322	2,742	+419	
経常利益	1,743	2,326	+582	
四半期純利益	1,091	1,532	+440	

平成26年3月期 第2四半期決算説明会

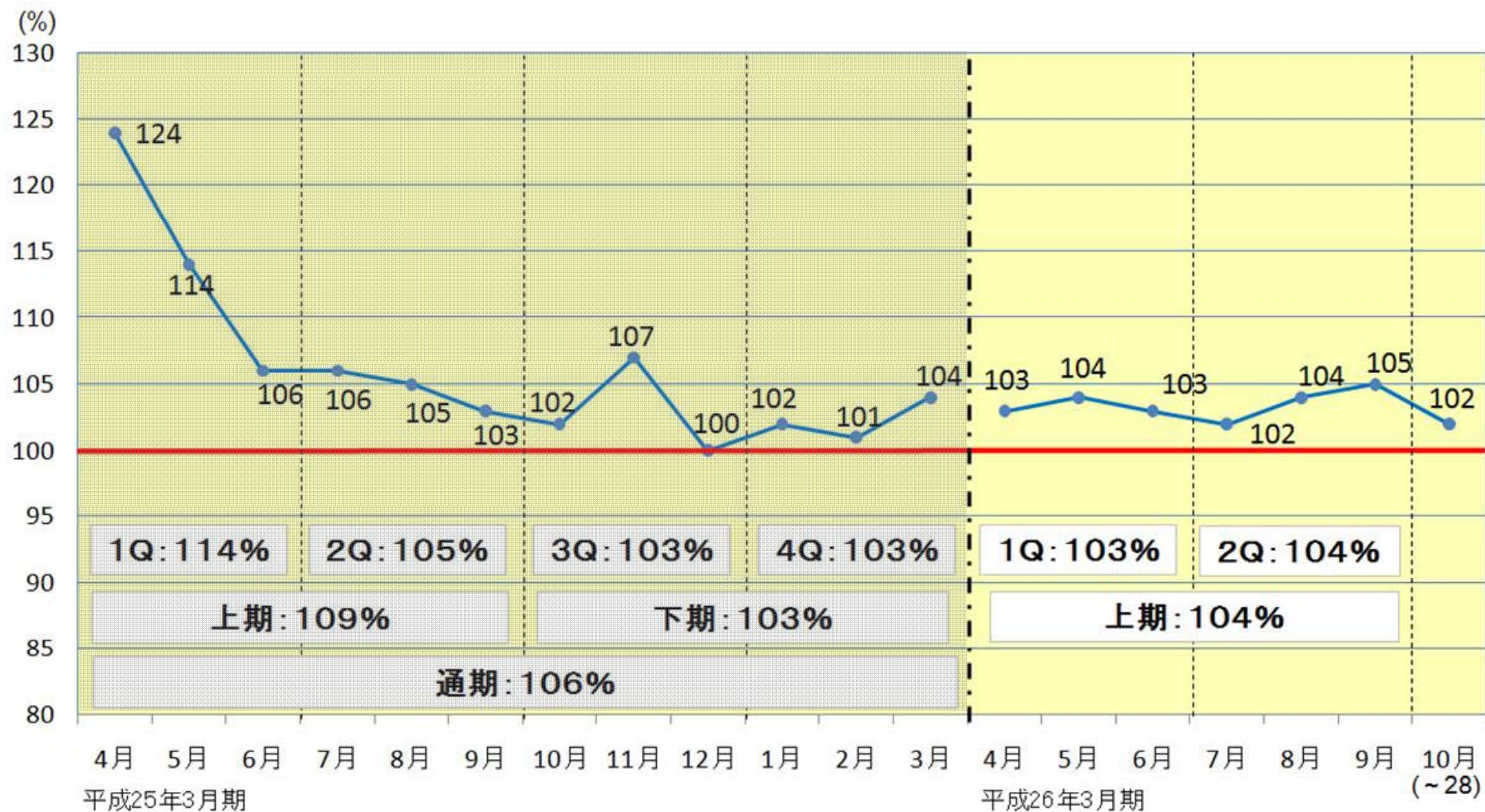
Ⅱ.平成26年3月期業績予想、主な施策展開

取締役 専務執行役員
総合企画本部長
宮澤 勝己



上期実績の推移 (東海道新幹線輸送量)

◆東海道新幹線断面輸送量(対前年比・東京口)



平成26年3月期 通期業績予想の修正(単体)

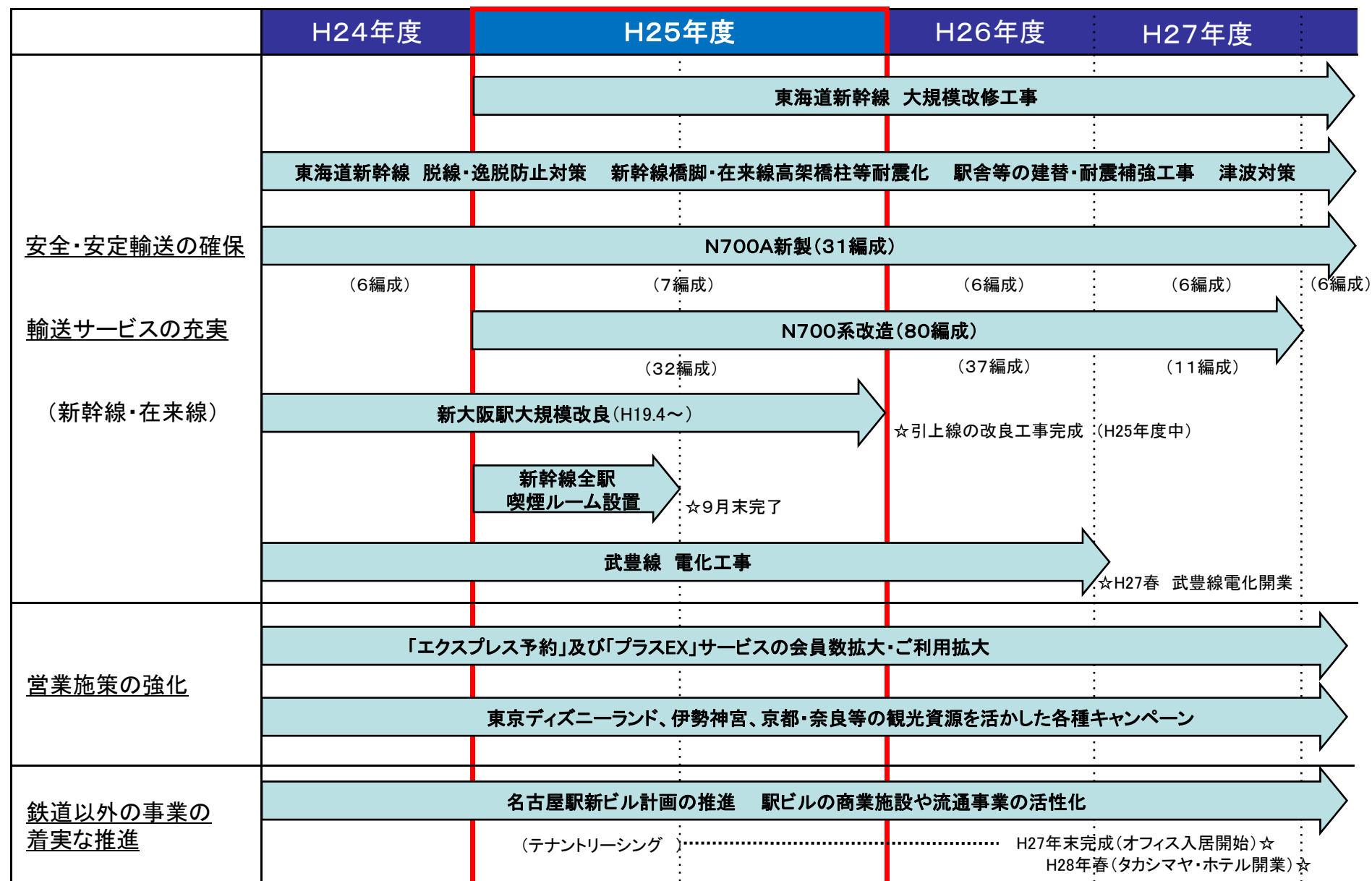
	26年3月期 前回予想 A	26年3月期 今回予想 B	増減 (B-A)	(億円)
営業収益 (運輸収入)	12,340 (11,721)	12,530 (11,906)	+190 (+185)	
営業費用	8,310	8,360	+50	
人件費	1,740	1,740	—	
物件費	3,650	3,660	+10	
動力費	410	420	+10	
修繕費	1,390	1,390	—	
業務費	1,850	1,850	—	
租税公課	340	340	—	
減価償却費	2,580	2,620	+40	
営業利益	4,030	4,170	+140	
営業外損益	△780	△860	△80	
経常利益	3,250	3,310	+60	
当期純利益	2,130	2,180	+50	

平成26年3月期 通期業績予想の修正 (連結・セグメント別)

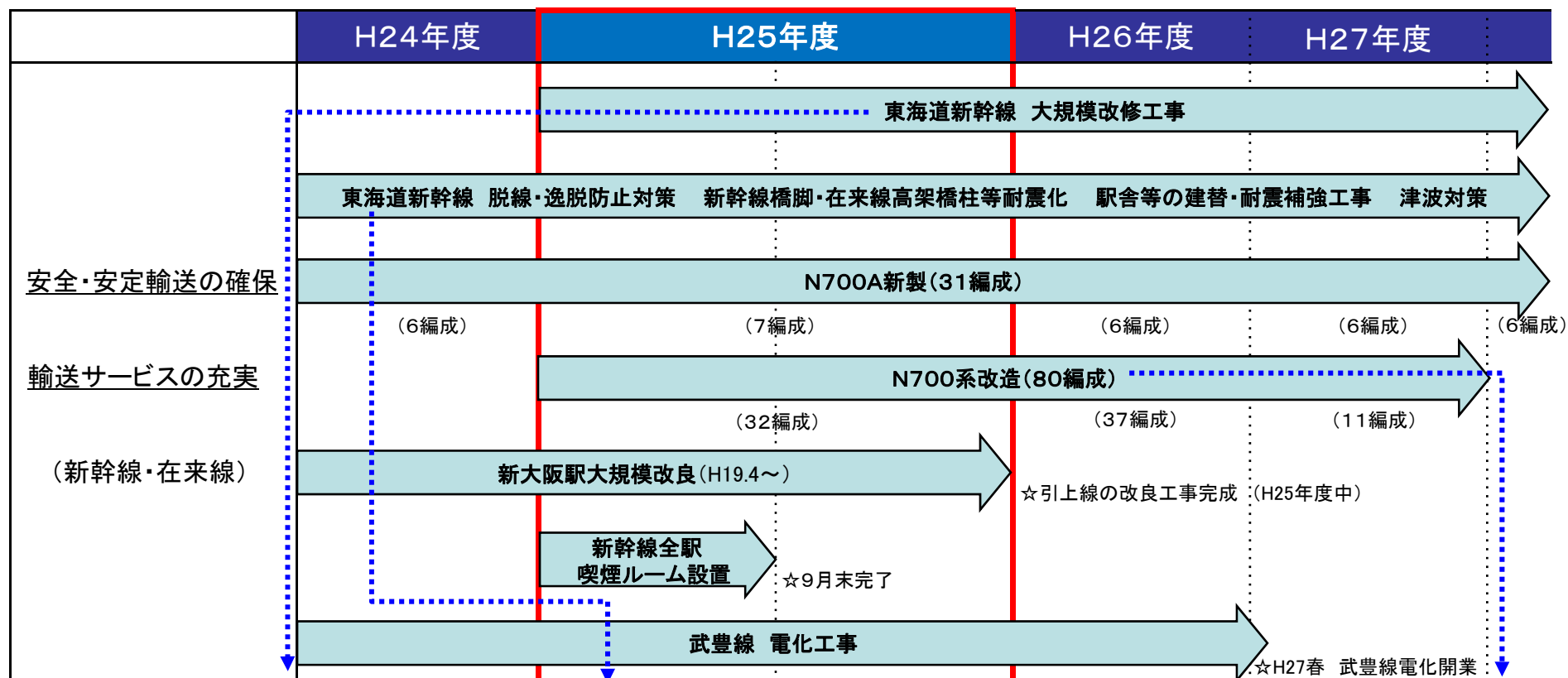
		26年3月期 前回予想 A	26年3月期 今回予想 B	増減 (B-A)	(億円)
営業収益		15,980	16,210	+230	
	運輸業	12,323	12,515	+192	
	流通業	2,108	2,189	+81	
	不動産業	661	661	—	
	その他	2,422	2,438	+16	
営業費用		11,710	11,770	+60	
営業利益		4,270	4,440	+170	
	運輸業	3,999	4,141	+142	
	流通業	65	71	+6	
	不動産業	143	144	+1	
	その他	73	83	+10	
営業外損益		△800	△880	△80	
経常利益		3,470	3,560	+90	
当期純利益		2,220	2,290	+70	

※セグメント別の内訳はセグメント間取引の相殺消去を行う前の数値です。内訳の合計値は営業収益・営業利益と一致しません。

主な施策展開



主な施策展開



大規模改修工事の例(トンネル)



脱線防止ガード



N700系改造

主な施策展開



山梨リニア実験線で走行試験再開

◆ 42.8kmへの延伸と設備更新を推進

◆ 平成25(2013)年8月29日 走行試験再開

→ 営業線仕様の確認、超電導リニア技術のブラッシュアップやコストダウン等に取り組む。

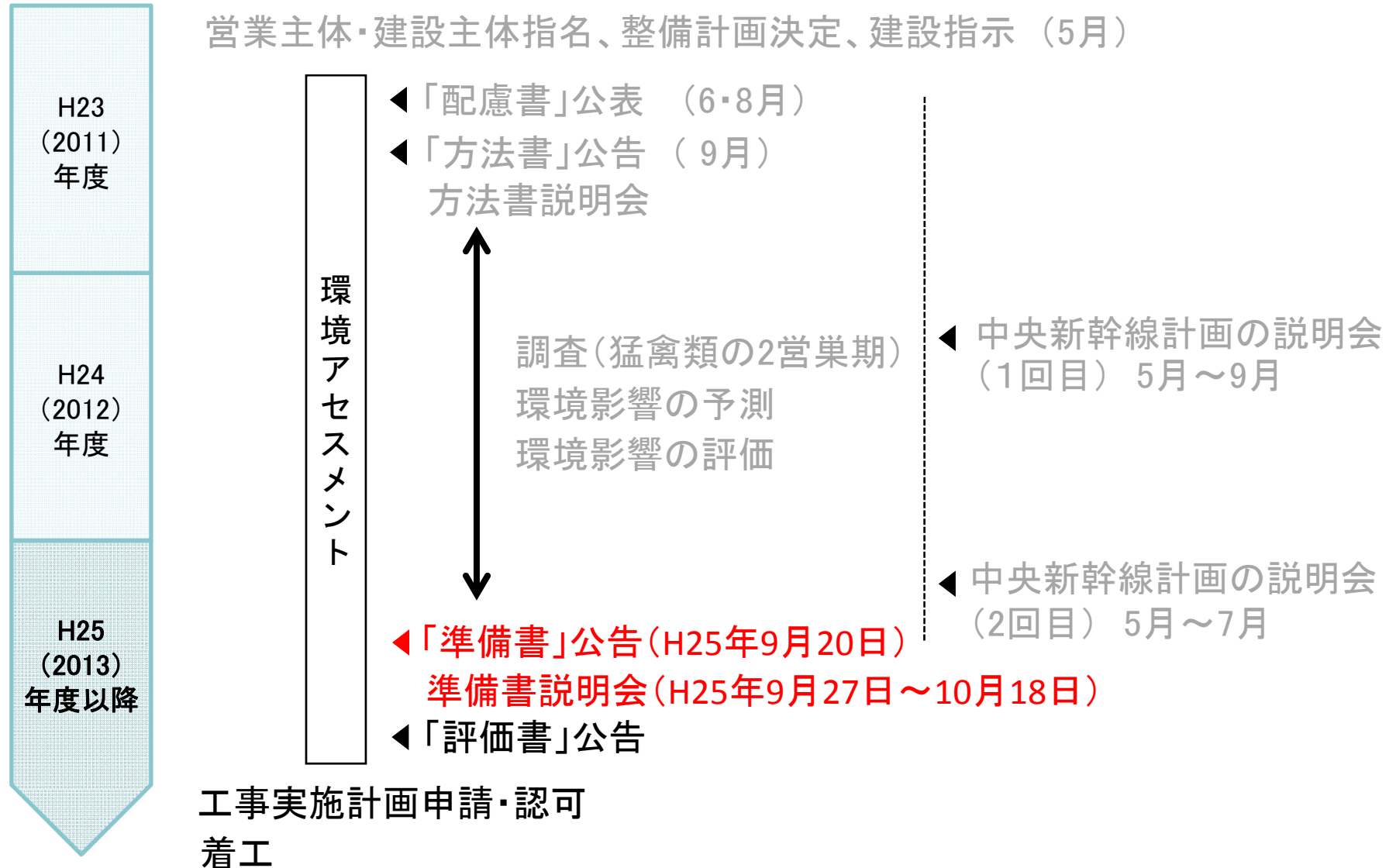


山梨リニア実験線42.8km 出発式

山梨リニア実験線の概要



中央新幹線計画の進捗



平成26年3月期 第2四半期決算説明会



東海旅客鉄道株式会社

平成25年10月30日

本資料に記載されている将来の計画や見込み数値等は、当社が現在入手可能な情報に基づく見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。潜在的なリスクや不確実性の例としては、経済動向や事業環境、消費動向、当社および子会社における他社との競合状況、法律や規制等の変更などが挙げられます。